

防災・日本再生シンポジウム

「東北地方の化学と教育:3.11 から 189 日の歩み」

日時:平成23年9月16日(金)14:30~17:00 (懇親会:17:15~19:15)

会場:東北大学片平キャンパス さくらホール

共催:日本化学会東北支部,東北大学大学院理学研究科,国立大学協会

プログラム

座長 河野裕彦 (日本化学会東北支部長、東北大学大学院理学研究科・教授)

14:30~14:35 開会のあいさつ

福村裕史(東北大学理学研究科長・教授)

14:35~14:55

『復興マラソン:有機化学研究室の一事例』

磯部寛之(東北大学大学院理学研究科・教授)

14:55~15:15

『東日本大震災における石巻専修大学の対応』

指方研二(石巻専修大学理工学部・准教授)

15:15~15:35

『東日本大震災からの復興を目指して-原発避難区域の高等学校現場の現状-』

高橋信幸(福島県立浪江高津島校・教務主任)

15:35~15:55 休憩

座長 佐藤次雄 (日本化学会東北支部副支部長、東北大学多元物質科学研究所・教授)

15:55~16:15

『1978年と1983年の震災経験と2011年の地震-防災への心構えと行動規範-』

中村 彰(秋田大学大学院医学研究科・教授)

16:15~16:35

『免震構造によって守られた東北薬科大学-33年前の震災からの教訓-』

吉村祐一(東北薬科大学・准教授)

16:35~16:55

『東日本大震災後の大学のあり方』

小間 篤(秋田県立大学・学長)

16:55~17:00 閉会の挨拶

美齊津文典(東北大学大学院理学研究科・教授)

講演者紹介

● 磯部 寛之

現職：東北大学大学院理学研究科 教授
1998年東京大学大学院理学系研究科助手
2004年同助教授
2007年東北大学大学院理学研究科教授（現職）

● 指方 研二

現職：石巻専修大学理工学部 准教授
昭和62年3月 東北大学工学部化学系卒業
昭和62年4月 東北大学大学院工学研究科 応用化学専攻博士前期課程入学
平成4年3月 同研究科 材料化学専攻博士後期課程修了
平成4年6月 ケースウェスタンリザーブ大学(米国、オハイオ州) 化学科 博士研究員
平成5年12月 東北大学工学部 助手
平成10年4月 石巻専修大学理工学部 講師
平成13年4月 石巻専修大学理工学部 助教授（現在は准教授）
現在に至る

● 高橋 信幸

現職：福島県立浪江高等学校津島校（サテライト校安達高校）教諭・教務主任
福島県喜多方市出身 1974年生
平成9年 福島大学教育学部中学校教員養成課程理科卒業
平成11年 福島大学大学院教育学研究科理科専修終了
平成14年 大阪大学理学研究科博士後期課程修了 博士（理学）
平成14年 福島県立岩瀬農業高等学校着任
平成19年 福島県立浪江高等学校津島分校着任（現 津島校）
平成15年～平成23年 産業・理科教育教員派遣研修

● 中 村 彰

現職：秋田大学大学院医学系研究科 教授

昭和 55 年 7 月：カナダのウェスタンオンタリオ大でポストドク

昭和 57 年 10 月：秋田大学教育学部

平成 10 年 4 月：秋田大学医学部

仙台での経験：

昭和 51 年 4 月に有機分析化学(伊東椒研究室)の博士課程に入学。

有機物理化学の分野で「加水分解反応下の[3,3]シグマとロピック転位の実証」がテーマであった。

当時の東北大理学部の化学は、高分解能 NMR の構造解析の水準が日本最高水準であり、研究室配属の学部四年生もデバイダーを片手にアナログ解析を何の障害もなく行っていたのが印象的であった。

当時は、Varian の HA100, 200MHz の NMR を技官の佐々木さんが担当しており、測定そのものの信頼性も最高水準であった。有機分析講座(伊東研)は、従来の化学反応等による構造決定の方法に加え、各種のスペクトル情報を総動員して、動的で高度な構造情報を収集解析するのが使命の一つであった。世界中の有機化学者に負けない構造決定に関する幅広い技術を身につけることができたと考えている。この間、昭和 53 年 6 月 12 日に宮城沖地震に遭遇する。昭和 58 年に秋田に着任後は鉱山学部の 300 人の学生の化学実験を一人で担当するが、同年の夏休みに、1978 年の震災から学んだ内容を実践し、0)石綿類の廃棄、1)ガラス容器に網ネットを被せ、2)戸棚に栈を付け、3)棚を壁面に固定し、4)実験室での実験指針の策定、等々を実施した。赴任後の 1983 年の日本海中部沖地震では、自室を含め、化学実験室の被害は試薬瓶等の転倒を含めて、全くなかった。

2011 年の東北太平洋沖地震に際しては、45 分間もの継続する大きな横揺れを秋田で経験する。

● 吉 村 祐 一

現職：東北薬科大学 分子薬化学教室 准教授

昭和 60 年 3 月 北海道大学薬学部卒業

昭和 62 年 3 月 同上博士前期(修士)課程修了

平成 2 年 4 月 同上博士後期課程単位取得退学

平成 2 年 5 月 北海道大学薬学部文部教官助手(薬化学講座、故 上田亨 教授)

平成 3 年 3 月 薬学博士

平成 3 年 3 月 北海道大学薬学部文部教官助手退職

平成 3 年 4 月 ヤマサ醤油株式会社入社
平成 11 年 5 月 同上退職
平成 11 年 6 月 昭和大学薬学部専任講師 (薬品製造化学教室、田中博道 教授)
平成 16 年 3 月 同上退職
平成 16 年 4 月 東北薬科大学専任講師 (第二薬化学教室、高畑廣紀 教授)
平成 17 年 4 月 同助教授
平成 18 年 4 月 東北薬科大学助教授
(第二薬化学教室から分子薬化学教室に研究室名称変更)
平成 19 年 4 月 東北薬科大学准教授 (呼称変更)
現在に至る
この間、平成 13 年 3 月～平成 14 年 5 月に National Cancer Institute-Frederick,
National Institute of Health (Laboratory of Medicinal Chemistry; Chief Dr.
Victor E. Marquez) に Research Fellow として留学

● 小間 篤

現職：秋田県立大学 理事長兼学長
昭和 43 年 5 月 東京大学大学院工学系研究科博士課程中退
昭和 47 年 4 月 工学博士学位取得
昭和 61 年 4 月 東京大学理学部 教授
平成 7 年 4 月 東京大学理学部化学科長
平成 8 年 10 月 東京大学 評議員
平成 11 年 4 月 東京大学 大学院理学系研究科長・理学部長
平成 13 年 4 月 東京大学 副学長
平成 15 年 4 月 高エネルギー加速器研究機構物質科学研究所所長
平成 16 年 4 月 高エネルギー加速器研究機構 理事
平成 18 年 6 月 科学技術振興機構 研究主監
平成 23 年 4 月 理事長兼学長就任

【日本化学会東北支部からのおねがい】

日本化学会では東日本大震災で被災した東北地方の小学校・中学校・高等学校を支援すべく、復興支援へのご要望やご提案を募っております。ご協力頂ける方は下記までご連絡ください。何卒宜しくお願いいたします。

日本化学会東北支部事務局 震災復興支援係
E-mail : nikka.tohoku@chemistry.or.jp